



首都大学東京 大学院

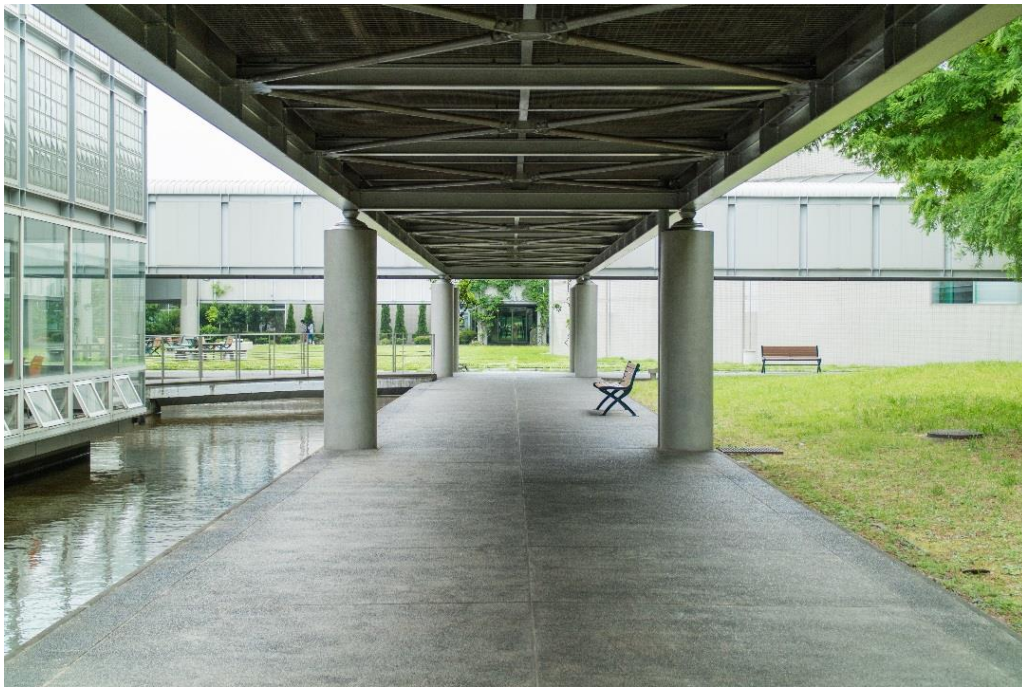
人間健康科学研究科

Tokyo metropolitan university, Graduate School of Human Health Sciences

Department of Nursing Sciences

看護科学域

研究分野の紹介



テーマ：大都市で生活する人々および地域の「健康」

看護科学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、
生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指す

看護科学域



看護学：知とアートの創造

■看護科学域では、大都市で生活する人々および地域の「健康」をテーマとして看護科学の研究・教育を行っています。近年の少子高齢化の問題や慢性疾患罹患患者の急激な増加に鑑み、健康長寿の伸延等を目的とした健康の維持・増進、生活習慣病や認知症などの疾病の予防および疾病からの回復、家族機能の維持・促進、終末期、医療者としての倫理の在り方などに焦点を当て、それらの健康課題を効果的・効率的に解決、支援する看護ケアについて個人レベルから地域のケアシステムモデル構築レベルまで発展させる研究を行なっています。博士前期課程においては、教育者、研究者の育成とともに高度な看護学の知識と技術を有する高度実践専門家（CNS）を育成しています。博士後期課程においては、研究者、教育者として看護科学の発展に寄与し、保健医療・福祉の分野でのリーダーとなる人材を育成しています。

○育成期看護学分野

助産学：助産学領域について理論・方法論を総合的に研究する。

リプロダクティブヘルス看護学：リプロダクティブヘルス看護学領域について理論・方法論を総合的に研究する。

小児看護学：小児看護保健領域について理論・方法論を総合的に研究する。

○成熟期看護学分野

成人看護学：成人とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。

高齢者看護学：高齢者とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。

○広域看護学分野

在宅看護学：在宅看護・地域ケアシステムについて理論・方法論を総合的に研究する。

公衆衛生看護学：公衆衛生看護学について理論・方法論を総合的に研究する。

地域精神看護学：地域精神保健問題等について理論・方法論を総合的に研究する。

国際看護/医療人類学：医療人類学的視点をいながら国内外の看護/医療の対象者を様々な視点から研究する。

○看護倫理・管理学分野

看護倫理・管理学：実践における倫理的諸課題および「質の保証」を可能にする看護提供システム等について総合的に研究する。

助産学 (助産学をより探究するため、平成26年度に母性看護学から名称を変更しました)

安達 久美子・菱沼 由梨

- 助産学の研究コースです（助産師の資格取得のためのコースではありません）。
- 周産期及び、女性の生涯全般を通しての女性とその家族の健康に関する幅広い課題に取り組んでいます。学生は、助産師の経験の中で、様々なリサーチクエスチョンを持ち、女性とその家族により良い助産ケアが提供できることを目標に研究に取り組んでいます。
- ヨーロッパ、北米、中国、ネパール、モンゴル、ベトナムなど、海外の研究者、助産師との交流を続けています。

これまでの学生の研究テーマ【抜粋】

- 看護系大学生の加齢に伴う妊孕性低下に関する知識およびキャリア成熟と希望出産年齢の関連
- 助産師の妊娠期の会陰ケア実施と関連要因
- 子育てひろばに通う母親の居住年数の違いによる「付き合い・交流」の実態
- 就労女性のライフコース観と避妊行動の関連について
- ハイリスク母子に携わる保健医療福祉専門職者の「多職種協働」への認識に関する調査
- 妊娠による骨盤の変化と分娩の関連
- 妊婦の腹部深部体温と腹部皮膚表面温の実態

学生の研究成果発表【抜粋】

前期課程・後期課程ともに、特に、英語での成果発表支援をしています。

- ◆Evaluation of infants' exposure to environmental tobacco smoke using salivary cotinine measurements. *British Journal of Midwifery*, 25(6): 366-371. 2017.
- ◇Factors associated with post-natal anxiety among primiparous mothers in Nepal: *International Nursing Review*, 61 (3): 427-34,2014.
- ◆Translation and validation of the Karitane Parenting Confidence Scale in Nepali language: *Midwifery*, 36, May, 86-91,2016.



学生が受けた研究助成

～研究助成の申請への支援をしています～

- 科学研究費補助金 平成30年度 3件
- ファイザーヘルスリサーチ研究助成

助産学領域教員スタッフ：教授 安達久美子 准教授 菱沼由梨 助教 巖千晶

リプロダクティブヘルス看護学

木村 千里・園部 真美

当領域では、リプロダクティブヘルス（性と生殖に関する健康）を基盤概念とし、思春期・成熟期・更年期・老年期など各ライフステージにおける女性と家族の健康支援に関する理論・最新の知見・技術を学び、女性の生涯を通じた健康課題に対する看護支援を探究するための研究手法を学びます。また、マタニティステージにある女性と家族の健康、well-being を促進する包括的なトレーニングを受ける機会を提供します。これらの研究活動を通じて、母子ケアとウィメンズヘルスの領域で活動する研究者が集まり、絆を形成する場を醸成します。さらに、研究成果が看護実践、看護ケアを受ける女性と家族の健康を改善するというエビデンスをヘルスケア政策に結び付けるよう研鑽していきます。

博士前期課程

リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルスに関する歴史・社会的背景、国際的動向を知り、女性と家族の健康課題に関する理論・概念、研究成果の活用方法を理解するとともに女性のライフサイクル各期における健康課題、リプロダクティブヘルスの課題について理解を深めます。

また、リプロダクティブヘルス、ウィメンズヘルスを促進するための実際の看護実践場面への参与により女性とその家族への支援活動の課題について考察したうえで、研究に取り組んでいただきます。



生と性の教育



母乳育児支援



最近の研究テーマ

- ・ Antenatal/Postnatal Promotional Guide を用いた地域母子支援活動
- ・ 育成期の母子支援活動とサービスラーニング
- ・ 健康上の問題をもつ周産期、育児期の女性に対する支援と評価
- ・ 母乳育児支援と健康教育
- ・ 周産期の困難家族の支援
- ・ 児童と家族に対する生と性の教育



小児看護学

山本美智代 種吉啓子



小児看護学領域では
子どもと家族への看護の質を高めることを目指しています

博士前期課程

<小児看護専門看護師（CNS）コース>

子どもが病気や障害をもつことによって生じる子どもと家族の変化について査定する方法、査定によって明らかになった看護上の問題に対して援助する方法など、講義やゼミを通して小児看護専門看護師として必要な知識を習得します。また、実際に小児看護専門看護師の指導のもとで実習を行い、より実践に応用できる知識と技術を学びます。



<論文コース>

小児看護学領域で重要と考えられる概念や理論を理解します。また、子どもの発達や健康に関する課題とその影響について家族を含めて捉え、査定をする技術、方略を学びます。さらに、小児看護学における研究の動向と課題を明らかにしたうえで、研究に取り組みます。



博士後期課程

小児看護学における研究の動向と重要課題について、文献レビューやフィールドワークを通して明らかにしたうえで、研究対象となっている子どもや家族が生きる日常を、対象となっている人々の視点から理解し、その人々の社会的な背景や基盤を理解します。その上で、看護実践の質の向上、看護学の発展に寄与できるような研究に取り組みます。

最近の研究テーマ

- ・障がいのある子どもの家族への看護
- ・病気や障害のある子どものきょうだいの成長に関する研究
- ・災害時における在宅障害児の直面する問題とその防止に関する研究
- ・小児看護における家族支援



成人看護学

西村 ユミ・福井 里美

成人看護学領域（前期課程・後期課程）では

成人期にある人々やその家族への看護実践のあり方を捉え直し、
新たな視点や方法を創造していくことをめざします。

成人看護学領域では、より良い看護実践を実現するために、病いを患う人々の経験の理解に関心を向けています。

人々は、生活をしながら、病院や施設などで治療を受けたり療養をしたりしています。その経過の中で、同じような病い経験をした者が集まって患者会・家族会を作ったり、生活の知恵を交換し合ったりもしています。研究科の授業や演習では、こうした経験や営みを理解して援助を行うための思想や理論、方法論について検討します。

他方で、看護実践の編成のされ方にも関心を向けています。これは、看護の「実践知」を探求することにも繋がります。

看護職の皆さんは、実践において、まずは患者の状態の方に関心を向けられています。そのため、自分自身がいかに実践や経験をしているのかについて、自覚したり言語化したりすることは難しいのではないのでしょうか。

成人看護学領域では、授業や演習での議論、文献レビューや調査などを通して、自分のものの見方や実践の仕方を捉え直し、そのうえで、看護実践の新たな見方や技術を創造することをめざします。さらに、こうした知恵や技術を“継承”していくための方法論について検討します。

これらの検討をもとに、各自が研究課題に取り組み、看護実践現場での問題解決能力、教育、指導力の向上を目指します。さらに、成人看護学の新たな知恵を創造します。



【成人看護学領域の教員・大学院生の研究テーマ】

- ◆ 急性期看護場面の実践知に関する現象学的研究
- ◆ がんサバイバーへの心理社会的支援の実践研究
- ◆ しびれている身体で生きる経験とその意味——回復期にある中枢神経障害患者に注目して
- ◆ 2型糖尿病患者における〈日常〉の現象学的記述
- ◆ 婦人科がん手術後の排尿障害の体験の意味
- ◆ 救命救急センターにおける家族への看護実践
- ◆ 病棟における看護師長の看護実践に関する研究
- ◆ 介護老人保健施設におけるケアスタッフと利用者の〈かかわり〉

高齢者看護学

織井 優貴子・増谷 順子

高齢者看護学は、加齢に伴う疾病や障害が、高齢者の Quality of Life(QOL)に与える影響を科学的に分析し、その人らしく生きるために必要な支援方法を研究する看護分野です。

本領域では、これからの「活力ある長寿社会」を実現するために、人々のより良い健康と生活を支え、看護科学を発展させるリーダーとして新たな「知」の創造をめざす研究者・教育者を支援したいと考えております。また、高齢者を対象としたシミュレーション教育・研究や、国際交流にも積極的に取り組んでまいります。

博士前期課程の目標

1. 我が国における高齢者の健康管理に影響している要因が分析できる
2. 高齢者の健康状態に応じた高齢者ケアのあり方について議論できる
3. 高齢者の健康状態に応じた今後の健康管理のあり方について課題を抽出し実施可能な戦略を提案し開発することができる
4. 自ら選択した研究課題について 倫理的配慮に基づき計画的に研究を進めることができる

博士後期課程の目標

高齢者看護学の実践と教育の科学的根拠について追求し、自ら研究を推進することができる

研究分野

がん患者とその家族の QOL 維持向上を目指した心理介入効果に関する研究
(若年) 認知症者へのケア方法および地域ケアサービスプログラムの開発・評価
高齢者および認知症者の非薬物療法、認知症者および家族の QOL・健康に関する研究
シミュレーション教育を用いた高齢者看護人材育成に関する研究
災害看護教育におけるシミュレーションを活用した教育プログラム開発
看護教育・研究・実践の国際化方略など



シミュレーターを用いた
フィジカルアセスメント

大学院生のテーマは、療養生活環境に関連した研究、災害時における「災害時要援護者」への支援と看護者の役割に関する研究、認知症者・家族への看護支援に関する研究、高齢糖尿病患者のセルフケア支援に関する研究、終末期高齢癌患者のケアに関する研究、終末期の看取りケアに関する研究などです。

講義は、高齢者看護、技術などの専門的知識、地域看護、災害看護、高齢者の健康評価などがあります。演習・実習は、シミュレーターを用いたヘルスアセスメントを実施し、高齢者医療における高度な実践能力、リーダーシップ能力、チームワークによる医療の質向上をめざしています。

在宅看護学

河原 加代子・島田 恵・岡本有子

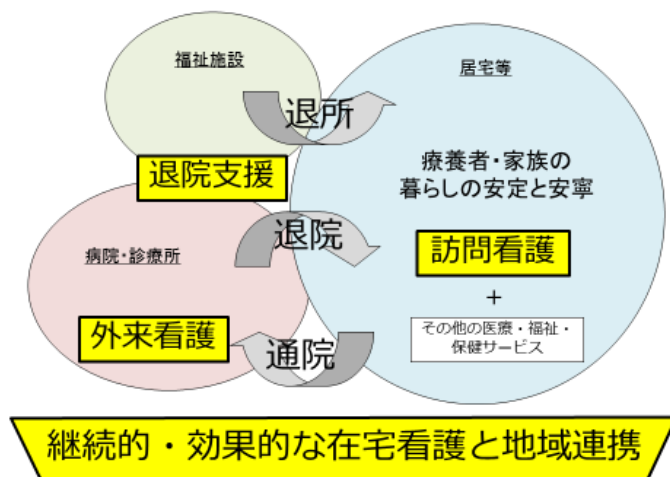
在宅看護学領域では、「退院支援」「訪問看護」「外来看護」を3つの柱に（下図）、地域ケアシステム・在宅看護分野の課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学習し、課題解決のプロセス及び実践と評価方法についても探求し、その成果を研究としてまとめる能力を育成します。

●博士前期課程

関心ある現象について概念(変数)を特定し、データ収集の方法、分析方法の基礎を学びます。次に特別研究で取り組むテーマについて国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、実地踏査を行う演習形式を組んでいます。

●博士後期課程

学生が志向する地域ケアシステム・在宅看護分野の課題分析及び看護介入の方法論の開発にむけた能力をフィールドワークを通して養います。



<教員の研究テーマ>

河原加代子（教授）

- 1) 呼吸運動を介した自律神経バランス調整モデルの開発 科研(B)
- 2) 認知的アプローチを取入れた中高年層のフットケアプログラムの開発 科研(B)

島田 恵（准教授）

- 1) HIV/AIDS 外来看護の再構築と有効性の検討 科研(C)
- 2) HIV/AIDS コーディネーターナースの実践に関する研究

岡本有子（准教授）

- 1) がん末期患者と家族への専門看護師主導型地域包括ケアプログラムの臨床的有用性の検証 科研(B)
- 2) 要介護高齢者へのケアの質評価

<修了生の論文テーマ>

博士論文

- ・保健師による事業化に必要なストラテジーの構造
- ・要支援高齢女性の社会活動尺度の開発

修士論文

- ・医療的ケアを必要とする子どもの体調の変化に初めて直面した母親の判断に関する研究
- ・外来患者の主体的な受療継続を支援する専門性の高い外来看護師の実践
- ・人生の終末期の生き方の意思決定の特徴と関連する要因
- ・HIV/AIDS 看護を専門とする外来看護師による受診継続支援を HIV/AIDS 患者はどのように認識しているか
-受診中断歴のある HIV/AIDS 患者へのインタビューを通して-

在宅看護学領域では、博士前期課程に論文コースと CNS コースが用意されており、CNS コースは日本看護系大学協議会において在宅看護専門看護師（CNS）^注教育課程として認定を受けています。平成 29 年度には 4 名の在宅看護 CNS が育っています。また、外来看護師の立場で在宅看護 CNS として活躍する人材も誕生しています。

●在宅看護専門看護師(26 単位教育課程)専攻は、CNS に求められる 6 つの能力（卓越した実践、教育、相談、連携調整、研究、倫理的問題の調整）を高めるため、在宅看護 CNS としての役割を担う実習が組まれています。

（注：専門看護師となるには、大学院修了後に所定の手続きが必要です。また、平成 28 年度から、在宅 CNS26 単位教育課程の継続申請の承認を得て実施しています。）

公衆衛生看護学

齊藤 恵美子 吉羽 久美

■分野の目指すもの

保健師の実践に関連する領域のため、大学院では、保健所等の行政機関や企業、地域包括支援センター、病院などで様々な実践経験を積んだ学生や、現場の保健師も社会人学生として学んでいます。探求したいテーマをもって、日頃の実践を向上しようと考えている看護職の方々の、主体的な研究活動を支援したいと考えています。

■分野の教育内容

公衆衛生看護学は、個人や家族、地域全体の健康と生活の質の向上に寄与する実践に役立つ科学です。地域で生活している人々とその家族や、様々なつながりをもった人々の集団を対象としています。

1. 博士前期課程での目標

- 1) 公衆衛生看護学の理論、実践、研究による最新の知見を評価する。
- 2) 公衆衛生看護学の知見としての研究を実施する。
- 3) 多様で多文化的な集団を対象として、根拠に基づく公衆衛生看護実践の適用を評価する。
- 4) 研究に関する倫理的課題と責務について、明確に述べる。
- 5) 健康を促進するためのリーダーシップの方法を身につける。

2. 博士後期課程での目標

公衆衛生看護学の実践と教育の科学的根拠について追求し、前進させる能力を養う。

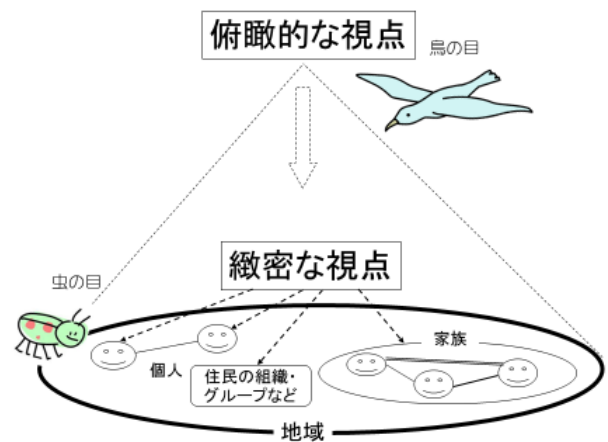


図 地域をみる：鳥の目と虫の目

齊藤恵美子, (2014), 第4章 公衆衛生看護実践と教育の特性, 住伯和子(責任編集), 公衆衛生看護技術(pp. 4), 医歯薬出版株式会社.

■大学院生の研究テーマ

1. 修士論文

- ・育児中の母親の健康を増進する生活習慣に関連する要因の検討
- ・住居を喪失した生活困窮者の居所の転帰に関する予測因子
- ・結核病棟看護職のストレスの要因：患者の暴言・暴力、問題行動の実態を通して
- ・診療所での禁煙外来受診者の禁煙に対する自信・自己効力感と禁煙継続との関連
- ・職域の定期健康診断結果からの脂肪肝有所見男性の生活習慣の特徴
- ・発達障害者の親の負担感に関連する要因の検討

2. 博士論文

- ・多様なエスニックの視点からの高齢者の保健サービス利用に関連する要因：中国帰国者、定住コリアンを対象として
- ・産科医療機関における虐待発生予防にむけた看護実践自己評価尺度の開発
- ・保健師の家庭訪問による子ども虐待予防支援評価尺度の開発
- ・女子大学生の保健行動促進を目指したヘルスリテラシー向上性教育プログラムの開発と有効性の検討
- ・社会的に孤立した高齢者への地域包括支援センター看護職の見守り支援に関連する要因

※教育・研究活動の詳細は、以下のホームページをご覧ください。

公衆衛生看護学分野ホームページ：<http://weber.hs.tmu.ac.jp/phn/index.html>

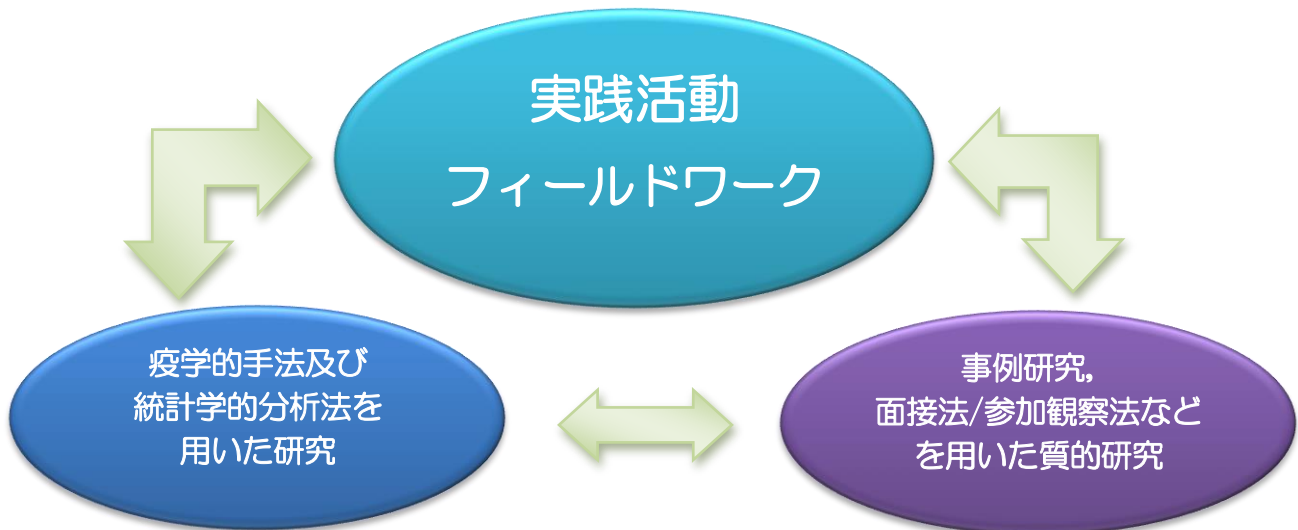
地域精神看護学

山村 礎*・廣川 聖子

※印の教員は本年度は学生を受け入れていません

精神看護学の特徴は、乳幼児から高齢者まで、精神障害の有無、さらには場のいかんにかかわらず、メンタルヘルス上の悩みや生きにくさを抱えた方々やそのご家族および関係者など、広範な個人や集団を対象としている点です。

そして、そうした人々を支援するために、一方では脳神経科学などの先端分野から、他方では人々の日常のおしゃべりまで、さまざまな情報を活用していきます。まさに全人的アプローチといえるのが精神看護学のもうひとつの特徴なのです。そのような広範な知をもとに、看護職は個人のために、そして社会のために何ができるのかを追求していくと同時に、看護の意味についても探求しようとしています。



最近の研究テーマ (学位論文テーマ含む)

- 行政における自殺未遂者支援事業の役割の検討
- 自殺企図予防を念頭においた精神科看護師の実践に関する検討
- 訪問看護を活用した自殺予防支援プログラムの開発
- 地域で暮らす統合失調症を抱える人の就労に対する意識
- 精神科急性期治療病棟における患者の退院後の生活を意識したケアを実践する看護師の態度
- 中小規模の事業場におけるアルコール使用障害の実態とその重症度と関連のある因子の検討
- 統合失調症を持つ女性の妊娠・出産の経験
- 精神障害を抱える親を持つ子どもの自助グループに関する研究
- 精神健康上の問題を持つ人のきょうだいの経験に関する研究

国際看護/医療人類学

野村亜由美



看護における医療人類学の位置づけ

1. 看護系大学では、学部の一般教養の選択科目として「医療人類学」を開講しているところがありますが、大学院教育で看護教員が「医療人類学」を教えるのは本学が初めてだと思います。
2. 「医療人類学」は対象となる国や人びとの「人間」「健康」「病気」「医療」について多角的に学ぶ学問領域であるため、「国際看護」と親和性の強い基礎看護系の領域です。自分とは異なる文化の人たちの病気観や治療行動が、その人たちが暮らす文化的/社会的背景とどのように結びついているのかを理解し、看護/医療の対象となる人びとが抱えている問題はなにか？健康状態が改善しないのはなぜか？健康状態や生活がより良く改善するにはどのような関わりが必要か？なにが人びとの間で問題になっているのか？などについて考えます。
3. 「医療人類学」を学びたいと思う人は、国際協力で海外から帰国したボランティア経験者や、海外の医療に関心がある看護師が多いと思います。学部で「文化人類学」の基礎知識を学んでいないので、「医療人類学」を学ぶことは難しいと思うかも知れませんが、医療人類学も看護学も「人間とはなにか？」について探求する学問という意味では共通しています。
4. 本コースでは、医療人類学の基礎知識をまなびながら、日本国内のみならず、途上国における医療問題や健康問題を、フィールドワークを通して現地の人とともに考え、彼らの健康状態の改善に向けた取り組みについて考察し、将来的にグローバルな場で活躍できる専門職者の育成を目指します。



看護倫理・管理学

習田明裕 石川陽子

看護倫理学

看護は「人」を対象とする実践の科学であり、人間を尊重すること、つまり人権を尊重することが、看護が看護たり得る基盤となる重要な理念です。看護倫理学研究室では、こうした理念のもと、医療現場が抱える様々な倫理的課題、例えば高度先進医療における「インフォームドコンセント」の問題、患者の安全を守るという名目で行われてきた「身体拘束」の問題、療養の環境が施設から在宅へとシフトする中で生じてきた「訪問看護師の葛藤」など、その実態を探るとともに、看護職としてどう対応していけばいいのか探求してきました。

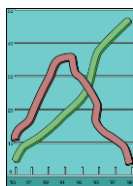
現在は主に、臓器移植、特に健康な人から臓器提供を受ける生体移植や、脳死移植現場における看護職の倫理的葛藤について、看護の視点から研究を進めています。

Ethics

研究テーマ

- 臓器移植看護における看護師の役割・機能に関する研究
- 看護職が直面する倫理的課題の探索およびその対応
(移植看護、手術看護、ICU看護、救命救急看護、認知症看護、他)
- 利用者の尊厳や権利を尊重するケアの方法及びシステムの開発・・・など

看護管理学



看護管理学とは、保健・福祉分野における人的・物的・経済的資源の効果的・効率的なマネジメントを体系化していく学問です。このようなマネジメントスキルは管理者のみに求められるのではなく、全ての看護職者に必要とされるものです。また、看護のあり方は医療制度・政策に大きな影響を受けるため、患者・国民の健康の維持・増進に必要な看護や医療提供体制についてエビデンスに基づく政策提言を

していくことが必要です。

看護管理学教室では、現存する課題の解決や将来の看護提供体制の検討に資する研究を行っています。演習では看護倫理学教室と合同で厚生労働省や日本看護協会等で幅広い看護の役割について学びます。



研究テーマ

- 看護師の専門職性に関わる研究（多職種連携、人材育成、他）
- 看護師の国際的移動に関する研究
- 医療の対象者に向けた「看護」の可視化と数量化に関する研究
- 効果・効率的かつ安全なケアの方法及びシステムの開発・・・など

看護科学域 博士前期課程				
分野		指導教員		
育成期看護学	助産学 (助産師資格取得のコースではありません)	教授	安達 久美子	直通 03-3819-7248 mwadachi@tmu.ac.jp
		准教授	菱沼 由梨	直通 03-3819-7250 yuri_hs@tmu.ac.jp
	リプロダクティブヘルス看護学	准教授	木村 千里	直通 03-3819-7403 ckimura@tmu.ac.jp
	小児看護学	教授	山本 美智代	直通 03-3819-7390 ymichiyo@tmu.ac.jp
准教授		種吉 啓子	直通 03-3819-7410 taneyosi@tmu.ac.jp	
成熟期看護学	成人看護学	教授	西村 ユミ	直通 03-3819-7255 yumin@tmu.ac.jp
		准教授	福井 里美	直通 03-3819-7256 satomif@tmu.ac.jp
	高齢者看護学	教授	織井 優貴子	直通 03-3819-7406 ykorii@tmu.ac.jp
		准教授	増谷 順子	直通 03-3819-7342 masuya@tmu.ac.jp
広域看護学	在宅看護学	教授	河原 加代子	直通 03-3819-7404 hu_yuan@tmu.ac.jp
		准教授	島田 恵	直通 03-3819-7204 megumi@tmu.ac.jp
	公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	直通 03-3819-7418 saito@tmu.ac.jp
	地域精神看護学	教授	*1 山村 礎	直通 03-3819-7217 yamamura@tmu.ac.jp
		准教授	廣川 聖子	直通 03-3819-7240 hiro-s@tmu.ac.jp
	国際看護/医療人類学	准教授	野村 亜由美	直通 03-3819-7241 ayumin@tmu.ac.jp
看護倫理・管理学	看護倫理学 看護管理学	教授	習田 明裕	直通 03-3819-7394 shuda@tmu.ac.jp
		准教授	石川 陽子	直通 03-3819-7185 ishikawa@tmu.ac.jp

*1 2019年度は学生募集をしない

看護科学域 博士後期課程				
分野		指導教員		
育成期看護学	助産学	教授	安達 久美子	直通 03-3819-7248 mwadachi@tmu.ac.jp
	小児看護学	教授	山本 美智代	直通 03-3819-7390 ymichiyo@tmu.ac.jp
成熟期看護学	成人看護学	教授	西村 ユミ	直通 03-3819-7255 yumin@tmu.ac.jp
	高齢者看護学	教授	織井 優貴子	直通 03-3819-7406 ykorii@tmu.ac.jp
広域看護学	在宅看護学	教授	河原 加代子	直通 03-3819-7404 hu_yuan@tmu.ac.jp
	公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	直通 03-3819-7418 saito@tmu.ac.jp
	地域精神看護学	教授	*2 山村 礎	直通 03-3819-7217 yamamura@tmu.ac.jp
看護倫理・管理学	看護倫理・管理学	教授	習田 明裕	直通 03-3819-7394 shuda@tmu.ac.jp

*2 2019年度は学生募集をしない